

月形町地域公共交通網形成計画（素案） 概要版

現状

人口減少・少子高齢化	<ul style="list-style-type: none"> □本町の人口は昭和55(1980)年と比較し、約4割減少 □平成30年度における高齢化率は40.9% □郊外部を中心に公共交通空白地域が存在 □郊外部の著しい人口減少
機能都市	<ul style="list-style-type: none"> □都市機能は月形市街地に集約
自動車社会・事故	<ul style="list-style-type: none"> □自動車保有台数は概ね横ばい □交通事故に占める高齢者が第一次当事者の割合が一定数有 □70歳以上になっても運転意向有
観光	<ul style="list-style-type: none"> □本町の観光入込客数は10万人前後 □更なる観光誘客の検討
札沼線	<ul style="list-style-type: none"> □J R 札沼線の廃止が決定 □月形～当別方面へ移動多い □浦臼駅からも一定数の利用者が存在
路線バス	<ul style="list-style-type: none"> □日中時間帯の利用者が少数 □通勤・通学者が少ない休日の利用者が少数 □町内の市街地を中心に運行
スクールバス	<ul style="list-style-type: none"> □通学時間帯のみの運行 □小・中学生が対象 □一般混乗が可能

問題点

<ul style="list-style-type: none"> □人口減少に伴う公共交通利用者の減少 □高齢者を中心とした交通弱者の増加 □郊外部における散居形態の進行
<ul style="list-style-type: none"> □町内各地区から月形市街地への移動必要
<ul style="list-style-type: none"> □高齢者による交通事故抑制に向けた免許返納を推進する移動支援策の不足
<ul style="list-style-type: none"> □町内を目的地とした観光客の公共交通利用は少ない
<ul style="list-style-type: none"> □廃止代替バス路線の検討 □廃止代替バスに接続する各地区からの移動手段の確保
<ul style="list-style-type: none"> □市街地の限られた地域での運行 □気軽な利用が困難
<ul style="list-style-type: none"> □一般利用は片道のみ □市街地からの帰宅はハイヤーに依存 □町民の経済負担が大

課題

人口減少・少子高齢化に対応した公共交通網の構築
郊外部における居住形態を考慮した移動支援策の検討
各地区から月形市街地までの生活移動の支援検討
高齢者のバス利用を促す取り組みの検討
観光客誘客を目的とした公共交通と観光施設への移動の検討
JRの利用実態をもとにした廃止代替バス運行計画の検討
町民が利用しやすい運行形態の検討
郊外部における移動支援策と連携するなど、町民が使いやすい運行内容への見直し等を検討

意見・提案

広域交通	<ul style="list-style-type: none"> □当別町方面への移動での町民ニーズに即したサービス水準の検討 □町内から町外への移動で最も多い岩見沢市への生活交通の利便性向上の検討
町内交通	<ul style="list-style-type: none"> □町民移動を支援する新たな公共交通の検討
乗継拠点	<ul style="list-style-type: none"> □様々な公共交通が集まる乗継拠点の検討 □買い物などをしながら滞在できる空間の創出
利用促進	<ul style="list-style-type: none"> □バス交通に関する情報提供機能の強化

課題

廃止代替バスのサービス水準の検討
月形町から岩見沢市までの生活移動に係るバスサービスの検討
町内における生活移動の利便性向上に資する公共交通施策の展開
拠点の形成を検討
利用促進の展開

基本方針

月形町に安心して暮らし続けられる生活交通の確保
 といま、町民とともに公共交通網をつくり、守り、育てるとき

目標、施策

目標	目標値 (2018→2023年度)
目標1 町民の広域的な生活交通を支援する公共交通の確保 施策① 当別・札幌方面及び浦臼方面への生活移動の確保に資するJ R 札沼線廃止代替バス路線の検討 施策② 月形線の利便性向上に向けた取り組みの検討	町内における廃止代替バスの平日利用者数の増加 142人/日→160人/日 町内における月形線の平日利用者数の増加 109人/日→120人/日
目標2 町内における利便性の高い公共交通の導入 施策③ 郊外部における居住形態を考慮した予約運行型乗合交通等の導入 施策④ 広域交通との円滑な乗り継ぎを支援する観光も考慮した町内交通の検討	町内交通の年間利用者数の増加 10,758人/年 →11,850人/年
目標3 乗り継ぎの利便性を向上させる交通結節点の創出 施策⑤ 交通結節点における機能の検討	交通結節点の平日利用者数の増加 112人/日→130人/日
目標4 町民や観光客などの積極的な公共交通利用を促す利用促進策の展開 施策⑥ 交通結節点におけるバスマップ配布などの情報提供機能の強化 施策⑦ 広報誌やホームページを活用した情報発信の実施 施策⑧ 公共交通に関する地域への出前講座や地域・各種団体への説明会の開催 施策⑨ 児童・生徒や高齢者等に対する乗り方講習や利用体験の実施 施策⑩ J R 札沼線沿線4町への観光誘客を目的とした鉄道レガシーを活用した新たな観光施策の検討	町民による公共交通の利用割合の増加 21.7%→25.0% 年間の観光客数の増加 117,000人/年 →130,000人/年